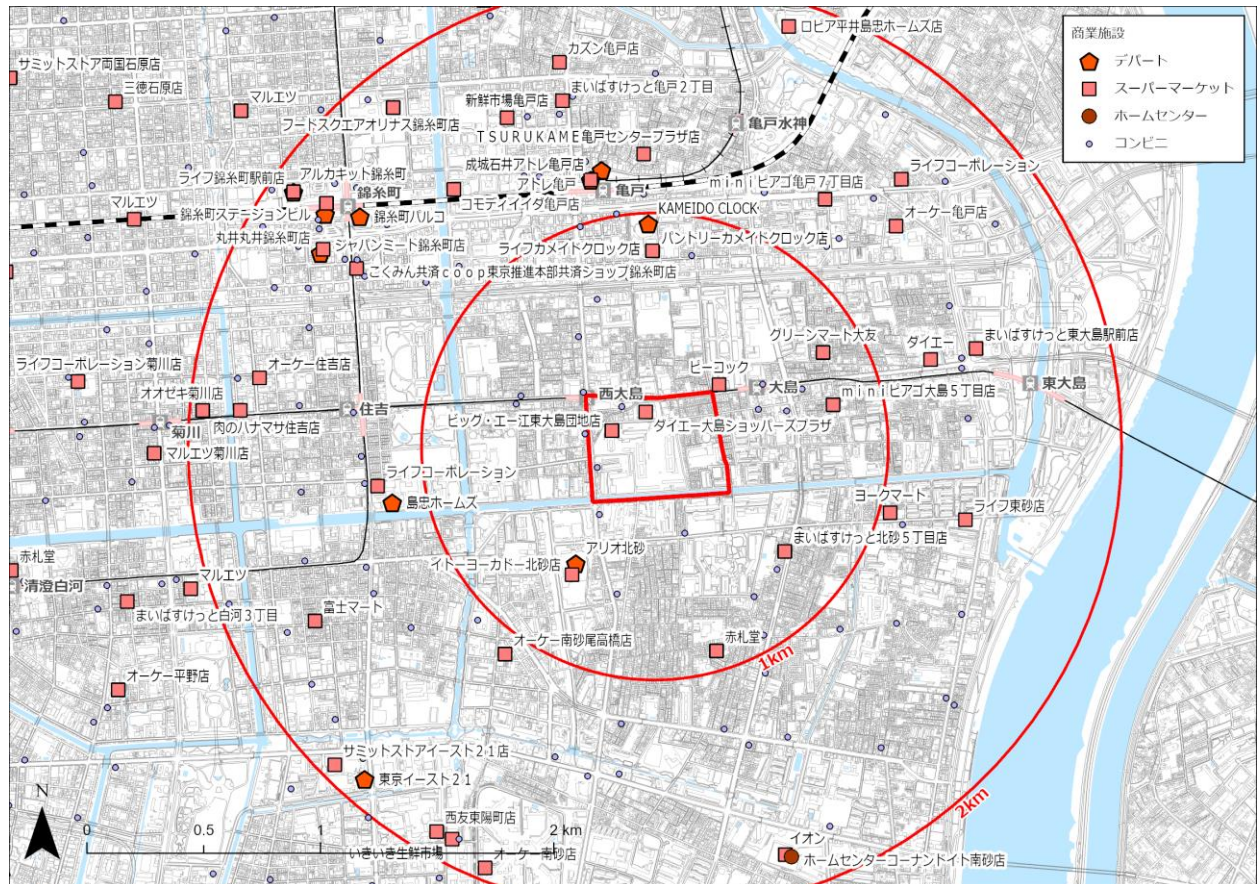


(2)-3 商業施設

- ・本エリアには「ビッグ・エー江東大島団地店」が位置し、徒歩10分圏内には「ピーコックストア大島店」「アリオ北砂」がある。明治通りや新大橋通り沿いにコンビニが点在している。

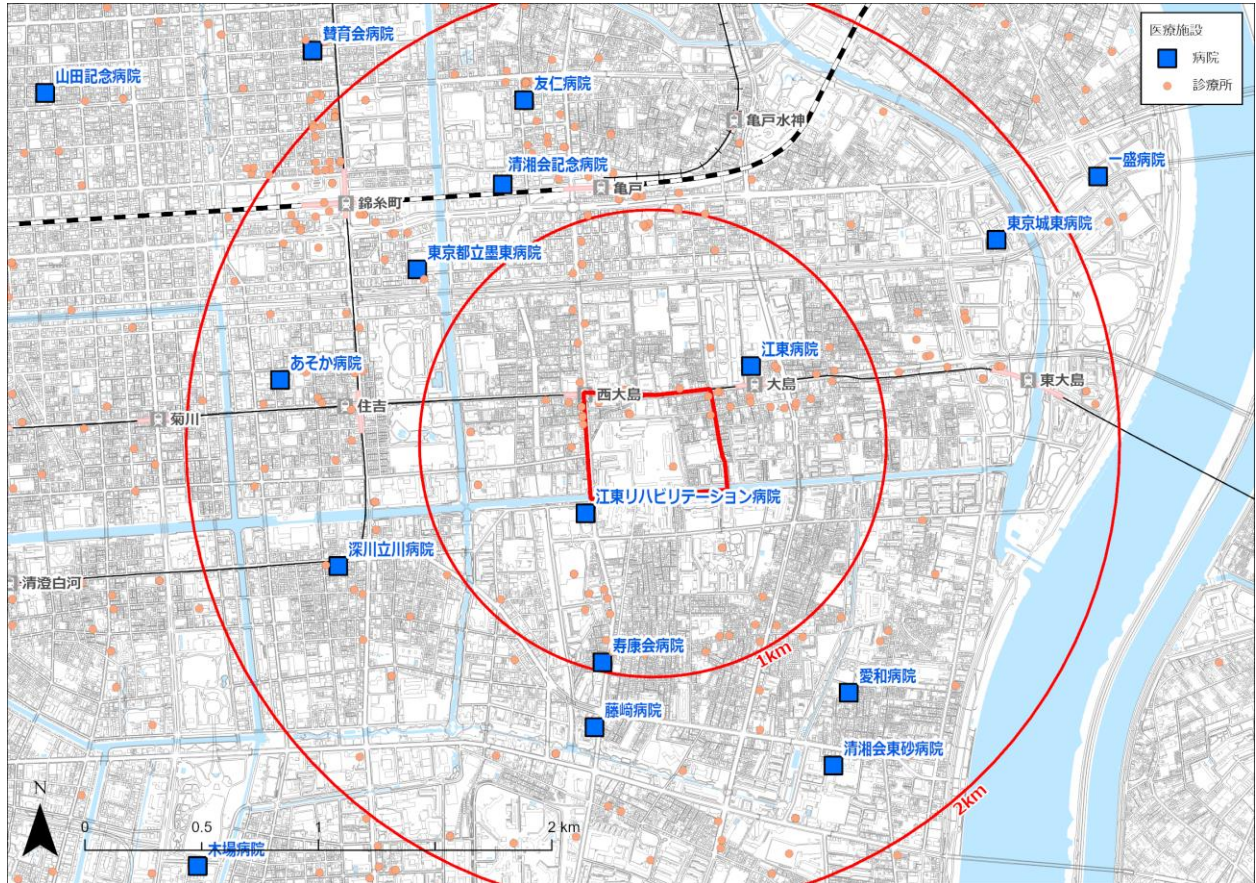


図：本エリア周辺の商業施設の分布

出典：大店立地法1000㎡超えスーパーマーケット、iタウンページ
(国土地理院基盤地図情報をもとに作成)

(2)-4 医療施設

- ・本エリアの2キロ圏内に「江東病院」「墨東病院」「東京城東病院」などの総合病院が複数点在している。
- ・西大島駅周辺や明治通り沿いに診療所が多く集まっている。

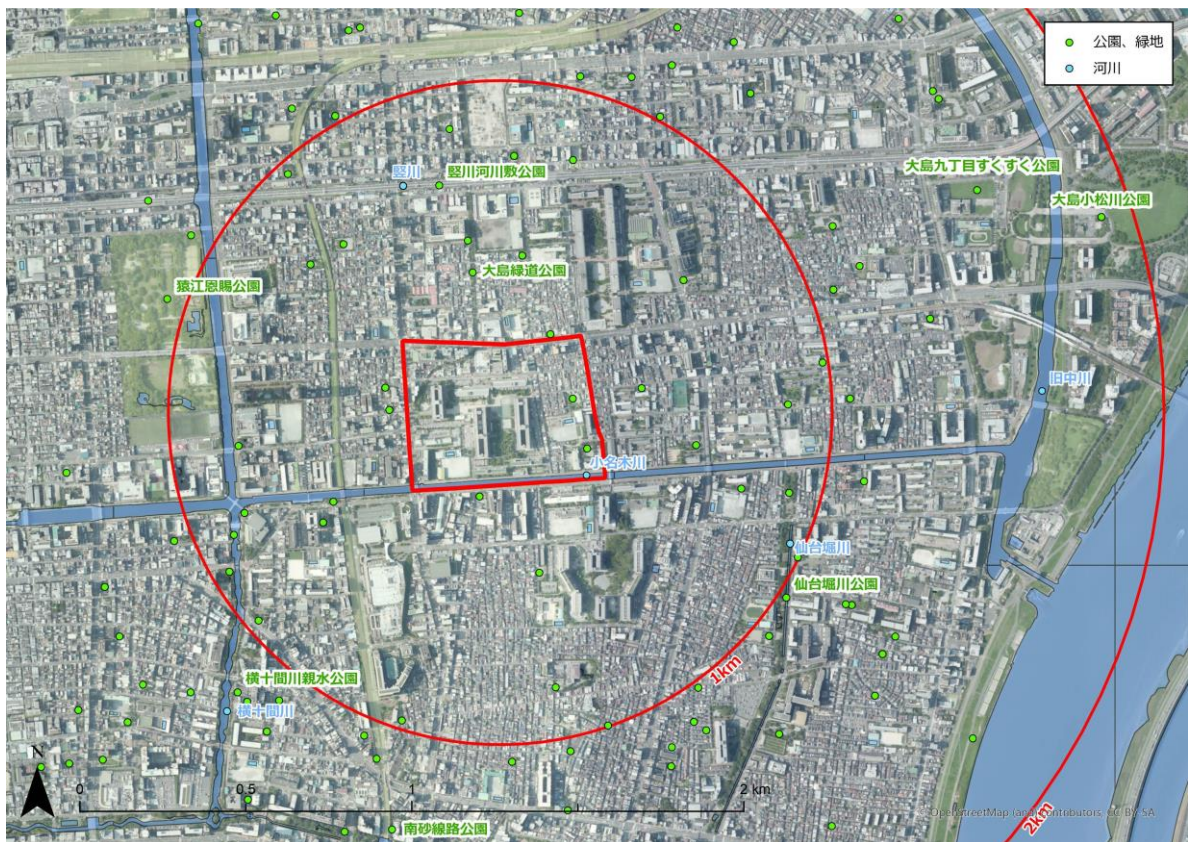


図：本エリア周辺の医療施設の分布

出典：厚生労働省
(国土地理院基盤地図情報をもとに作成)

(2)-5 水とみどりの現況

- ・本エリアの周辺には小名木川、横十間川など複数の河川がある。
- ・猿江恩賜公園、大島小松川公園などの大規模な公園や地域を繋ぐ大島緑道公園など、緑地資源が豊富である。
- ・本エリアの北西部には大島緑道公園があり、南北に繋がる緑と歩行者のネットワークを形成している。また、本エリア内のUR大島四丁目団地は豊かな緑地やオープンスペースを擁する。
- ・令和4年度緑被率・緑視率等調査では、本エリアの緑被率は17.01%と、江東区内全体の平均値21.01%より低くなっている。



図：本エリア周辺の河川・公園・緑地の分布

出典：江東区公式ホームページ施設案内

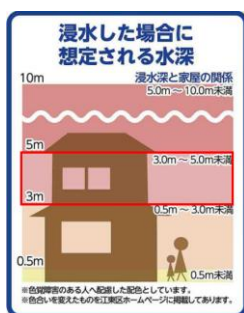
(3) 防災

(3)-1 風水害

本エリアの水害ハザードマップにおける被害想定は以下のとおり。

- ・本エリアは大規模水害が発生した場合、浸水被害が発生し、浸水継続時間も長期にわたるおそれがある。
- ・本エリアの大半において、洪水ハザードマップでは3.0m～5.0mの浸水が2週間以上、高潮ハザードマップでは3.0m～5.0mの浸水が1週間以上と想定されている。
- ・一方で、UR大島四丁目団地は周辺より地盤が高いことから、想定される水深は周囲より低くなっている。

【洪水氾濫】



・荒川の堤防が決壊したときに想定しうる最大規模の浸水想定
 ・本エリアの大半は3.0m～5.0mの浸水が2週間以上想定されている。

図：洪水氾濫による浸水の深さ

出典：江東区洪水ハザードマップ(改訂：令和7年6月)

【高潮氾濫】

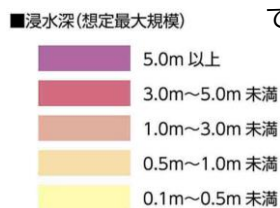


・東京湾に高潮が発生したときに想定しうる最大規模の浸水想定
 ・本エリアの大半は3.0m～5.0mの浸水が1週間以上想定されている。

図：高潮氾濫による浸水の深さ

出典：江東区高潮ハザードマップ(改訂：令和7年3月)

【内水氾濫】



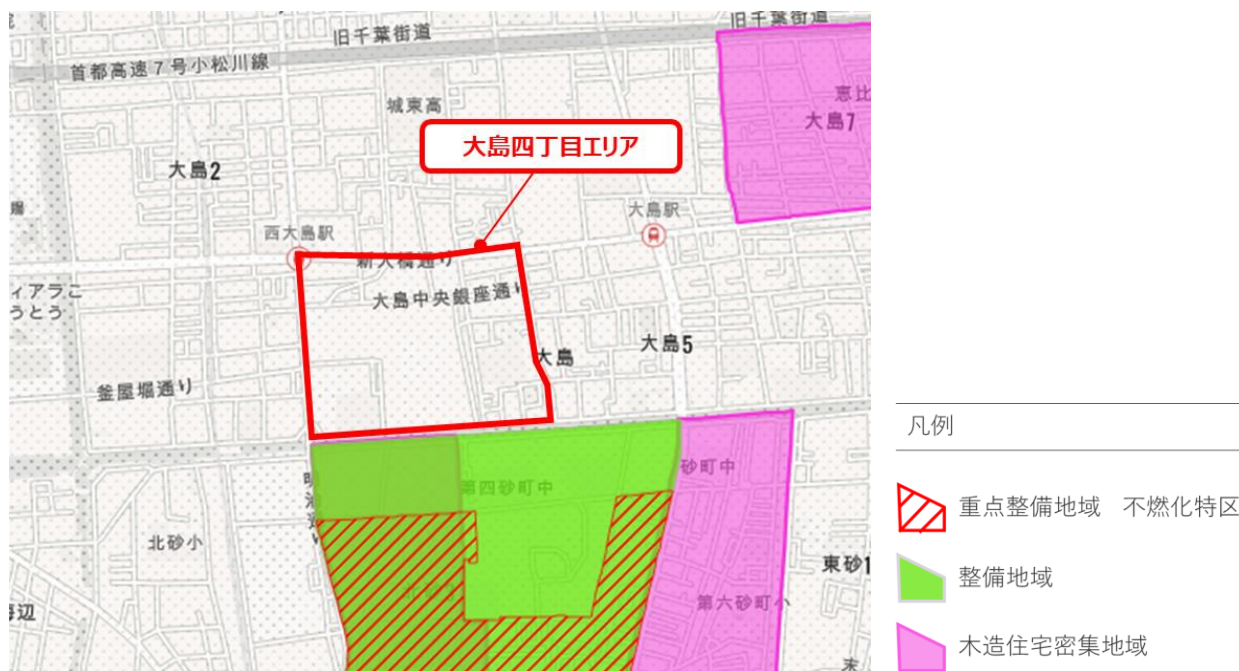
・局地的大雨等により雨水の排水能力が追い付かず「内水氾濫」が発生したときの浸水想定
 ・本エリアの東側は0.5m～1.0m、西側は0.1m～0.5mの浸水が想定されている。

図：内水氾濫による浸水の深さ

出典：江東区大雨浸水(内水)ハザードマップ(改訂：令和7年6月)

(3)-2 震災・火災

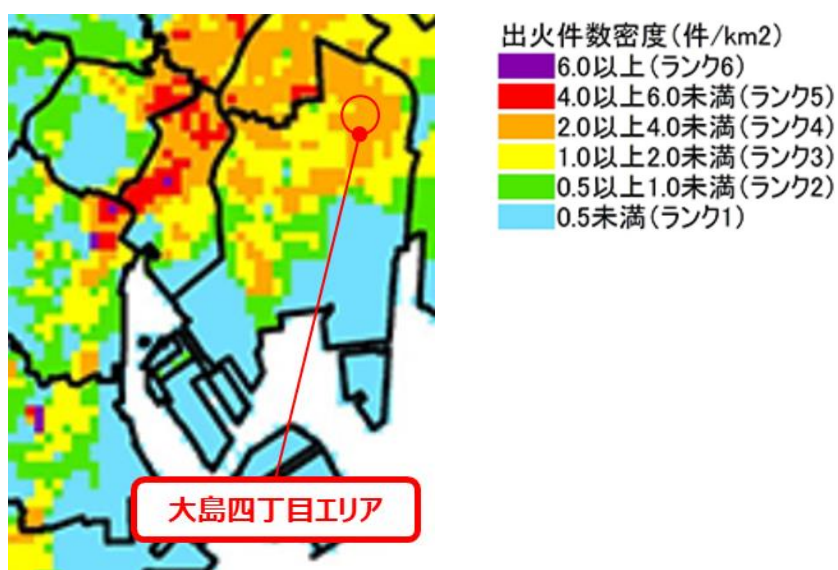
- ・東京都では、「防災都市づくり推進計画」において、効率的・効果的に市街地の防災性の向上を図るため、市街地の震災に対する危険性に応じてゾーニングを行っている。
- ・下図のとおり本エリアはいずれの地域にも指定されていない。また、市街地の延焼性を評価する一つの指標である不燃領域率においても、本エリアは70%を超えており、市街地の延焼による焼失率はほぼゼロと考えられる。



図：防災都市づくりに関する地域等

出典：東京都不燃化ポータルサイト HP 地図で調べる(GIS 版)

- ・一方、東京消防庁による出火危険度によると、本エリア周辺はランク4と出火危険度は江東区内において比較的高いエリアであることがわかる。



図：地震に関する地域危険度測定調査(第9回)

出典：東京都消防庁 HP

(3)-3 避難施設

【風水害】

- ・本エリアに含まれる UR 大島四丁目団地一帯は江東区と協定を結び、津波等水害時における「一時避難施設」として、3階以上の共用部が一時避難スペースとなっている。
- ・総合区民センターは、台風の接近等により区内で住宅の浸水等の発生が事前に懸念される場合において、区が避難指示等を発令する前段階に、気象状況等に応じて開設する「自主避難施設(自主的な避難を希望する区民の受入れ施設)」となっている。

【震災・火災】

- ・本エリアに含まれる UR 大島四丁目団地一帯は「避難場所」に指定されている。
- ・周辺地域では、大島六丁目団地、北砂五丁目団地が「避難場所」に指定されている。

【災害時共通】

- ・本エリア内の大島西中および大島南央小は、食料等の配給や情報収集等の活動拠点の役割も担う「拠点避難所」に指定されている。また、総合区民センターは「避難所」に指定され、防災倉庫が配置されている。



図：避難施設の配置状況

出典：江東区防災マップ 江東区全域 令和5年3月発行

(4) 交通

(4)-1 道路状況

- ・明治通り(幅員約22m)、新大橋通り(幅員約22m)、大島中央銀座通り(幅員約7m)、都営住宅の周辺道路(幅員約4～6m)を除くと、本エリア内の道路の現況幅員はその大部分が4m未満となっている。

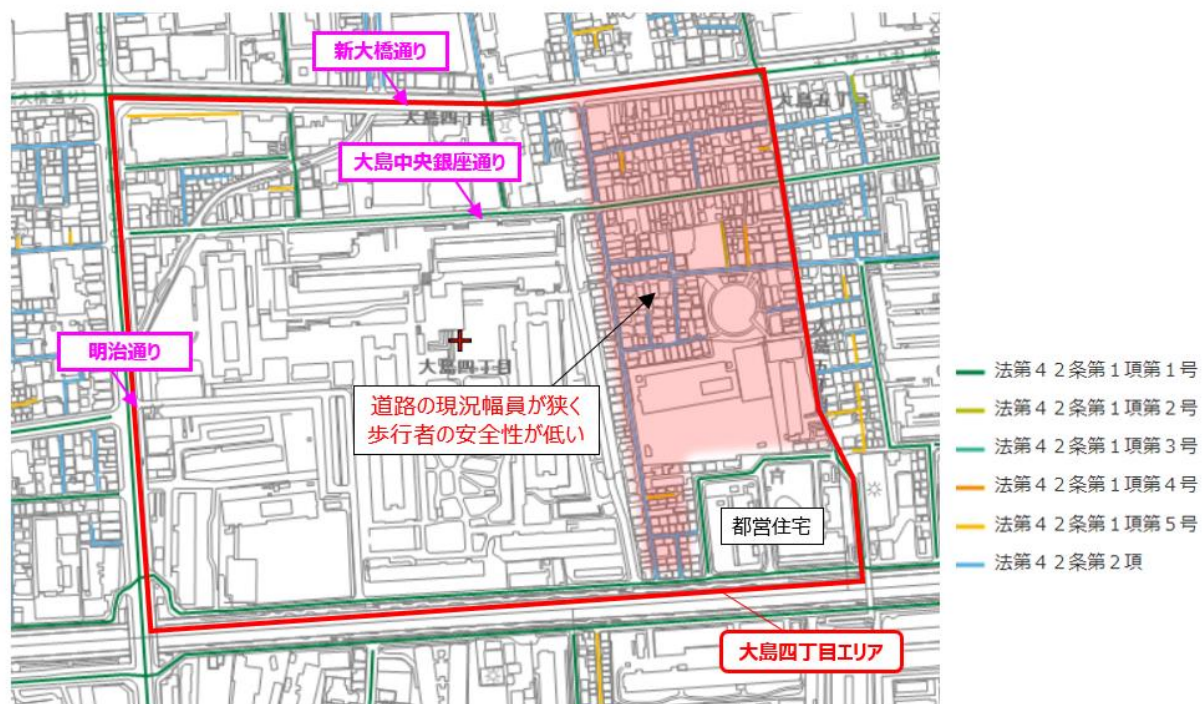


図:本エリア周辺の道路等の状況

出典:江東区建築情報閲覧システム指定道路マップをもとに一部加工

- ・本エリア内に通る4つの道路「明治通り」・「新大橋通り」・「大島中央銀座通り」・小名木川沿道は、『江東区道路網整備計画』の中で、整備対象路線に選定されている。
- ・「明治通り」・「新大橋通り」は幹線道路に定められ、良好なまちづくりに配慮した広域的交通の円滑化、防災性の向上、物流の支援、都市内の骨格形成などの機能確保・向上のための整備・改良を進めることとされている。
- ・「大島中央銀座通り」・小名木川沿道は地区主要道路に定められ、歩行者と車両を分離する歩行空間の整備や、歩行者と自転車を分離する自転車走行空間の整備を図るなど、地域の実情に応じた交通規制や道路構造、地区・エリアまちづくり方針や地区内の土地利用変化等との整合を図った整備を検討することとされている。

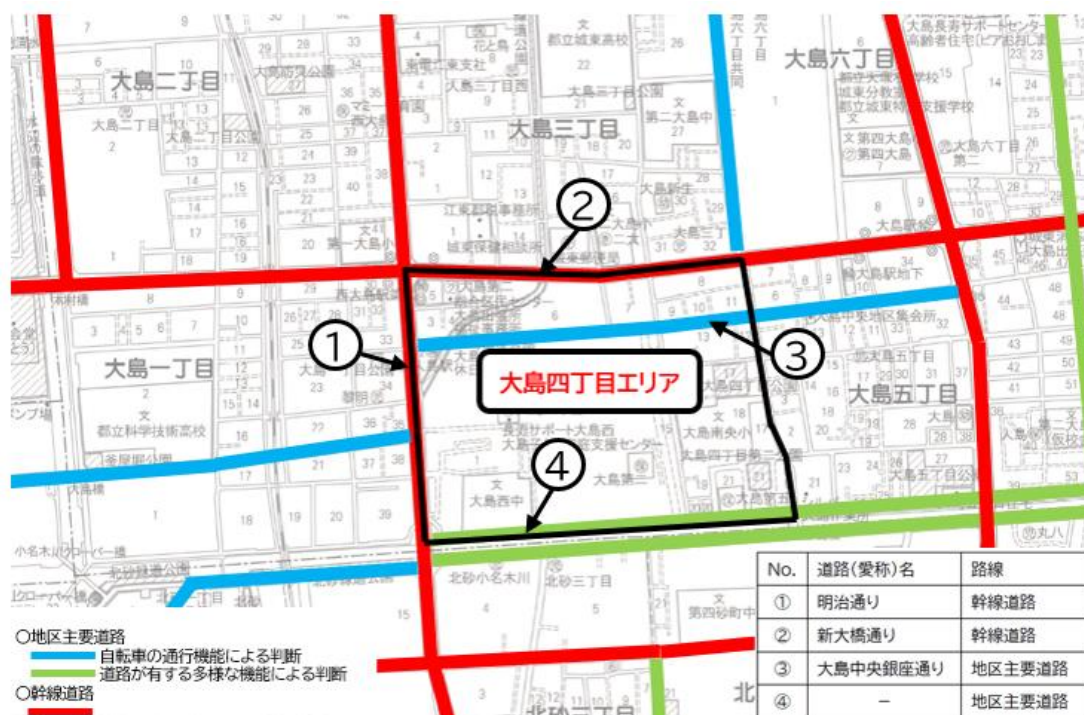


図:本エリア周辺の整備対象路線

出典:江東区道路網整備計画をもとに作成

(4)-2 西大島駅の乗降人員

- ・西大島駅の1日平均乗降人数は、乗車・降車それぞれ約13,000人である。
- ・コロナ禍以降、都営地下鉄の乗車人員は減少していたが、回復傾向にある。西大島駅の乗車人数は、令和5年度では前年度比で+7.4%となっている。

都営新宿線西大島駅			
乗車	定期	7,665	13,376
	定期外	5,712	
降車			13,360
乗車前年度比			+7.4% (12,456)

単位：人/日（駅別乗降人員の一日平均は、端数未調整）

表：西大島駅1日平均乗車人数（2023年4月～2024年3月）

出典：運輸統計年報（令和5年度／東京都交通局）

(4)-3 西大島駅の駅施設・バス停留所

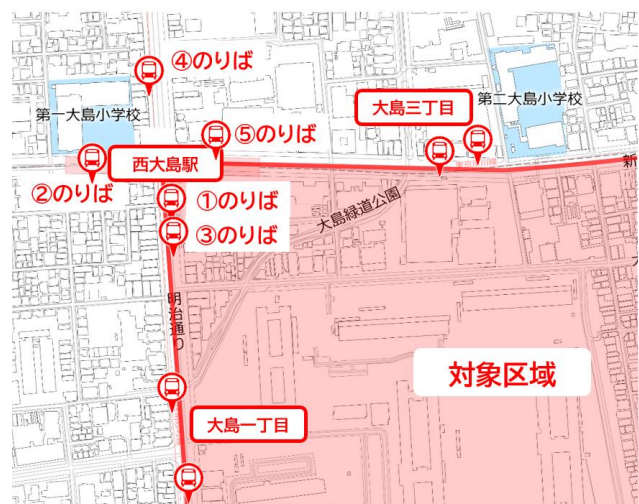
- ・西大島駅には4つの出入口があり、そのうち本エリア内の総合区民センターそばに位置する A4 出入口には EV が設置されている。西大島駅のバリアフリー経路はこの1ルートのみ整備されている。



図：西大島駅構内立体図

出典：東京都交通局 HP

- ・西大島駅周辺には5つのバス停があり、本エリア内には①番・③番のりばが位置している。
- ・西大島駅の交差点においては、バスを待つバス利用者、地下鉄出入口の利用者及び道路を通行する歩行者・自転車が交錯し、歩道の混雑が生じている。



図：本エリア周辺のバス停留所

出典：東京都交通局 HP
(国土地理院基盤地図情報をもとに作成)

(5) 環境

- ・江東区は令和3年(2021)7月に「ゼロカーボンシティ江東区」を表明し、2050年までに温室効果ガス(主に二酸化炭素)の排出量実質ゼロを目指している。
- ・まちづくりにおいても、建築物の環境負荷軽減やエネルギーの効率利用、自然環境が有する多様な機能を利用するグリーンインフラの活用、環境にやさしい多様な移動手段が利用できる環境整備等、脱炭素社会に繋がる取り組みが期待されている。

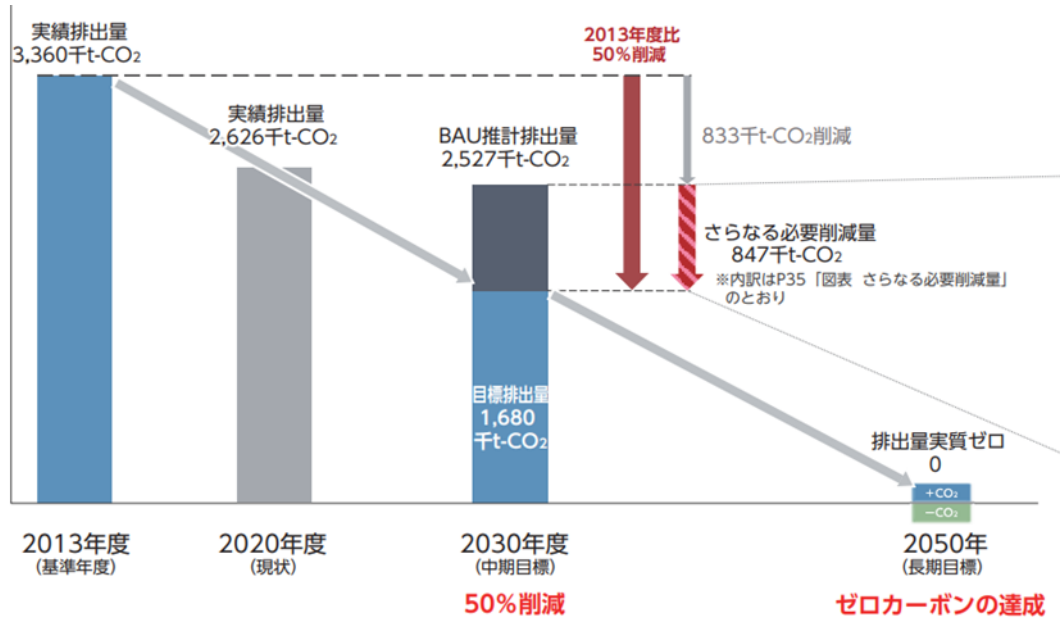


図:2030 年度 CO₂ 排出量削減のイメージ(江東区目標)

出典:ゼロカーボンシティ江東区 実現プラン

4. まちづくりの目標と整備方針

(1) 地域住民の方々のご意見

まちづくり準備協議会やワークショップ、まちづくり協議会で挙げられた、まちの魅力や課題、まちづくりの方向性に関するご意見は以下のとおりである。

①. まちの賑わいや利便性に関するご意見

魅力

- ・大島四丁目は利便性が高くポテンシャルがある
- ・総合区民センターがあって手続きなどが便利
- ・都営新宿線の駅が3つあり、便利で住みやすいまちが実現している
- ・都心へのアクセスなど、交通の便が良い
- ・商店街に残る昭和の下町の雰囲気が良い

課題

- ・商店街の活気がない
- ・駅周辺に魅力的なお店がない
- ・駅前の駐輪場が雑然としているため改善してほしい、駅前の駐輪場が不足している
- ・駅のエスカレーターが上りしかないので改善してほしい
- ・商店・スーパーが減り、不便になった
- ・繁華街がなく、他のまちに人が行ってしまう
- ・カフェなど休憩できる場所が少ない

まちづくりの方向性

- ・コンパクトなエリアで、情報の入手やサービスが受けられるまちになると良い
- ・バス以外に亀戸～新木場間の南北交通が充実してほしい
- ・毎日買い物できる安価なお店があり、日常の買い物がしやすくなるとよい
- ・団地の店舗を地域に開き、周囲の商店街と連携ができるようにしてほしい
- ・駅・団地・商店街・小学校・都営住宅など、各施設の繋がりをつくりたい
- ・シェアサイクルで回遊できるようなまちになると良い
- ・若い人がわくわくするようなまちのコンセプトがあると良い
- ・総合区民センター建替えの際に、周辺のビルとデッキで繋がるようになるのは良い
- ・滞在型施設などによりまちの賑わい創出を図ってほしい
- ・ドローンなどの新技術を活用したい

②. 屋外やみどりに関するご意見

魅力

- ・小名木川沿いの親水空間はとても良く、川沿いは水があるだけで涼しい
- ・小名木川沿いの護岸は遊歩道が整備されており、歩きやすい環境である
- ・小名木川は船遊びに絶好の環境で、地元のカヌークラブの活動等がある
- ・西大島は団地など、空間にゆとりのある印象があり、団地内のみどりが魅力的
- ・大島四丁目公園は花を楽しめる

課題

- ・団地の中庭は閉鎖感があり、段差もあって中に入りづらい
- ・団地の入り口の雰囲気が入りにくい
- ・カラスやネズミが増えて困っている
- ・小名木川は生きものが少ない



まちづくりの方向性

- ・明治通りに接する団地は交通結節点として開かれた場所になると良い
- ・屋外のみどりを充実させ、快適に過ごせる住宅地になると良い
- ・大島緑道公園の面影を残して整備していけると良い
- ・昔とは異なるかたちで地域と小名木川の関係性を位置付けたい
- ・団地外の地域の住民も入りやすい公園を、団地内につくってほしい
- ・小名木川の水辺を利用して歩きやすい遊歩道やおしゃれスポットをつくってほしい

③. まちの安全・安心に関するご意見

魅力

- ・ 西大島は昔化学工場ではなく、鉄工所などが多かった。安定したところという印象がある
- ・ 落ち着いていて、治安が良い

課題

- ・ 避難所である大島南央小学校・大島西中学校へのアクセスが悪い
- ・ 大島中央銀座通りは車の通り抜けがあり、安心して歩けない
- ・ 住宅地は元々湿地であるため水害が心配である
- ・ 道が狭く、通行の危険性を感じる(小名木川沿い、総合区民センター付近、明治通り沿いなど)
- ・ 治安やマナーの悪さへの不安を感じる

まちづくりの方向性

- ・ 防災やバリアフリーを進めて、安全なまちにしたい
- ・ 水害時は地域の住民も含めて垂直避難できる防災施設ができると良い
- ・ 学校が多い地域の特性を活かして、子育てしやすい選ばれるまちにしたい
- ・ 大島三丁目再開発、総合区民センター、UR大島四丁目団地建替えが連携して、地域全体が防災に強くなってほしい
- ・ 歩道に自転車の交通量が多いので、自転車専用レーンを設置してほしい
- ・ 小名木川沿いの歩行空間を通学路として安全な環境にしたい
- ・ 関係者が協力して「安全のおすそ分け」ができる地域防災を形成したい
- ・ 大島全体の防災マップや計画があると良い
- ・ 避難場所へ行き来しやすいように、地域のネットワークを強化したい
- ・ 災害時に船で安全な所へ避難するなど、小名木川の有効活用を検討してほしい
- ・ 水害に備えて高台の活用や高低差の確保を進めたい
- ・ 地域としての安全・安心のための備蓄を進めると良い

④. 暮らしや地域交流に関するご意見

魅力

- ・コンパクトなまちで駅まで5分。不便を感じたことがない
- ・学校が多く、子育てしやすい場所である
- ・地域コミュニティがあり、仲間がいる
- ・多様な国籍の住民がいる
- ・物価が安い

課題

- ・運動できる場所がない
- ・交流のためのサロンが不足している
- ・高齢化が進んでいるため、多様な支援が必要
- ・団地と周辺に段差があり、周辺と交流がしづらい



まちづくりの方向性

- ・団地の内外が繋がり、地域コミュニティの拠点になると良い
- ・地域のお祭りなどで住民が集まって交流できる場所・施設ができると良い
- ・団地に居場所となるカフェや遊びに行ける場所があると良い
- ・超高齢社会に対応した住まい・コミュニティの形成を推進し、高齢者が安心して住み続けられるまちにしたい
- ・区民プールやフィットネスなど健康づくりができるまちにしたい
- ・外国籍の方との共存を図り、地域活動にも参加してもらえると良い
- ・住宅(団地)の中で福祉サービスが受けられ、団地内のクリニック等へ容易に移動できるといった、開かれた地域を形成したい
- ・安心して長く暮らし続けられるまちで、子育てしやすい環境にしたい
- ・若い人が魅力を感じて住みたくなるまちにしたい
- ・交流を促す場所を充実させたい、団地周辺の段差がなくなると良い
- ・運動できる場所をつくりたい
- ・学校の施設などの共同利用により様々な人が使えるようにしたい
- ・再生可能エネルギーによる暑さ対策を検討してほしい

(2) 将来像(地区目標と基本方針)

上位計画における位置付け、地域の現状や課題、地域住民からの意見を踏まえ、本エリアの目指す姿(=将来像)として、「地区目標」と「基本方針」を以下のとおり設定する。

～地区目標～

「賑わい・みどり・安全・暮らし」をおすそ分けし合えるまち

地域の関係者が協力し合い、賑わいやみどり豊かなまちを創出するとともに、災害に強く安全・安心なまちづくりを推進し、幅広い世代・国籍の人々が共に安心して暮らし続けられるエリアを目指し、「賑わい・みどり・安全・暮らし」をおすそ分けし合えるまちを地区目標とする。

総合区民センター、大島緑道公園、小名木川、UR大島四丁目団地など個々に様々な機能を持ち、積極的に活用されうる公共的空間が多い本エリアの特性を活かし、「おすそ分け」が実践される空間となるような取組を検討していく。(「5.(3)エリアマネジメントの推進」)

同様に公共的空間が豊富な西大島地域や周辺地域においても、本エリアを基点とした公共的空間の活用・連携を図っていく。(「6. 今後のまちづくりの展開」)

- 大島三丁目駅前エリア・総合区民センター・UR大島四丁目団地の建替えの連携による、西大島地域全体の賑わい、防災性、まちの暮らしやすさの強化
- 関係者が協力し、互いに支え合う「おすそ分け」ができるまちの形成
- 今に対応しつつ未来にも備えた、気候変動等に柔軟に対応する安全で暮らしやすいまちの形成

～基本方針～

1) まちの賑わい強化と利便性の向上

西大島駅があり都心へのアクセスが良く、都市の幹線道路である明治通りと新大橋通りを有する西大島地域の特性を活かし、UR大島四丁目団地の建替えを契機として商店街と団地が連携することで新たな形の賑わいを創出し、賑わいの強化及び利便性の向上を目指す。

- 地域資源(大島緑道公園等)や建物更新と連携した賑わいの強化
- 魅力的な商業施設・カフェ等の拡充による生活利便性の向上
- 来街者の増加に寄与する滞在型施設等による賑わいの創出
- 歩行者・自転車ネットワークの形成によるまちの回遊性の向上
- UR大島四丁目団地のオープンスペース等においてエリアマネジメント活動等を通した賑わいの創出
- 未来の移動手段を見据えたまちづくり
- バリアフリーに配慮した歩行者ネットワークの整備

2)地域が繋がる潤いと憩いの空間の形成

大島緑道公園や小名木川沿いの親水空間、みどり豊かな屋外空間を有するUR大島四丁目団地が位置する特性を活かし、みどりの多様な機能が発揮できるみどりのネットワークを形成することで、周辺地域が繋がる潤いと憩いの空間形成を目指す。

- みどりの拡充による憩いの空間の創出

- 周辺地域等とのみどりや水の繋がりを意識した憩い機能の再生

3)災害に強く、安全・安心なまちの形成

水害等による災害が懸念されるとともに、歩行者や自転車の通行環境の改善が必要である本エリアの現状を踏まえ、大島三丁目駅前エリア・総合区民センター・UR大島四丁目団地の建替えが連携し、周辺地域へも「おすそ分け」できる西大島地域の防災拠点の形成を図るとともに、道路環境の改善などにより、災害に強く、安全・安心なまちを目指す。

- 垂直避難先の拡充による水害時の安全性の向上

- 防災マップの周知と避難訓練・備蓄等による日常的な「災害への備え」の強化

- 十分な歩道空間の確保や自転車通行空間の整備等による安全性の向上

- 災害時における周辺地域住民の一時的な避難生活を支える拠点の形成

- 周辺地域の住民を受け入れる避難場所の拡充

4)多様なライフスタイルが共存する住環境の形成

少子高齢化が進み、外国籍の居住者が多く住む本エリアの現状を踏まえ、子育てしやすい環境づくりや生活支援機能の強化、多文化共生における相互理解の推進などにより、多様なライフスタイルが共存できる住環境を目指す。

- 地域活動の継承と発展による地域コミュニティの更なる活性化

- 遊び場や子育て支援の拡充による子育てしやすい環境づくり

- 「住み続けられるまち大島」の実現に寄与する多様なニーズに応える生活支援機能の強化

- 多文化共生における相互理解の推進に繋がる交流機会の創出

- 次の時代のライフスタイルの実現・実践

- 最新技術や再生可能エネルギーの活用による暮らしやすさの向上と脱炭素まちづくり

- 幅広い世代が健康づくりやスポーツに親しめる場の創出

(3) まちづくり方針

■土地利用の方針

地区まちづくり方針のゾーン区分に基づき、本エリアの土地利用方針を以下のとおり設定する。

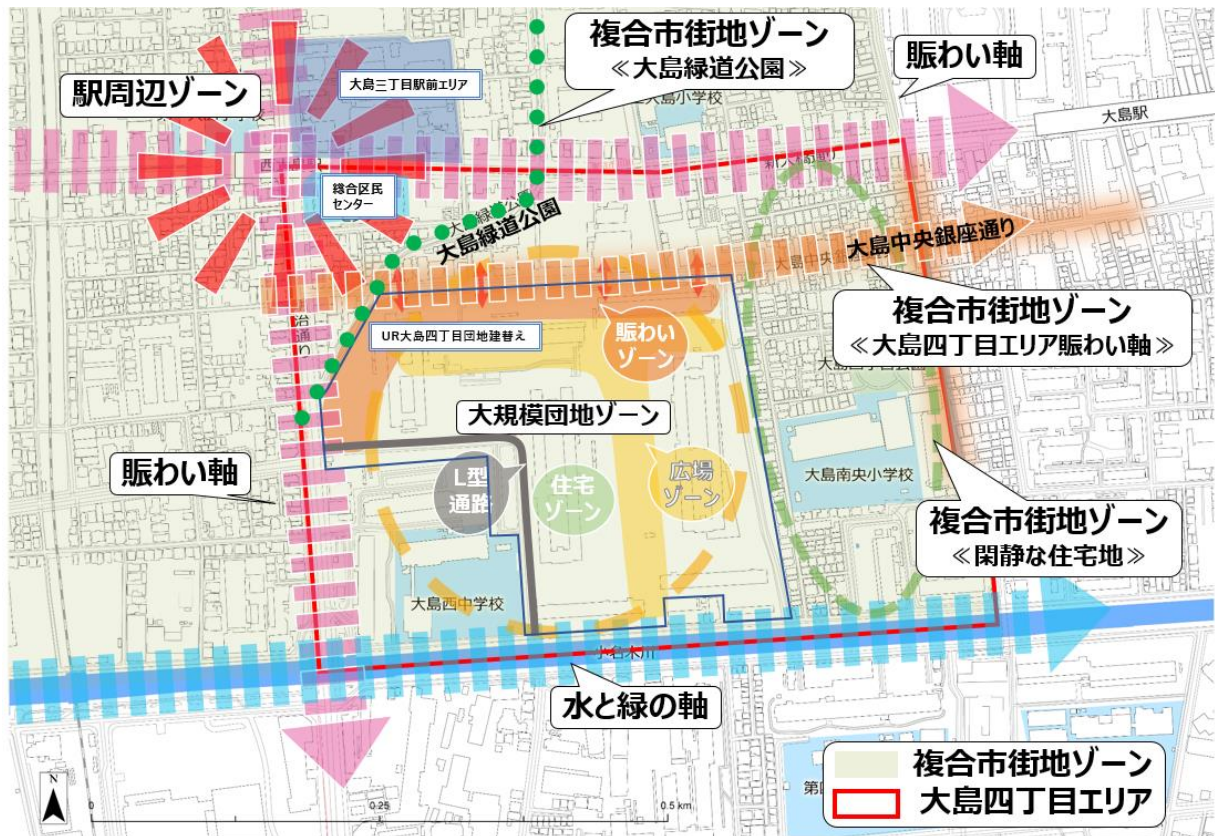


図:土地利用の方針

駅周辺ゾーン

- 都心アクセスの良いエリア特性を活かした交通利便性の強化
- 駅周辺のバリアフリー化の推進

賑わい軸

- 日常の買い物の利便性の向上
- 地域の事業者・商店街の連携による集客力の強化
- 江東区民まつり大島地区大会等地域活動の継承と発展

複合市街地ゾーン

<大島四丁目エリア賑わい軸>

- 地域の事業者・商店街の連携による集客力の強化
- 団地の更新による新たな商業活動との連携による連続した賑わい空間の形成

<閑静な住宅地>

- みどり豊かで居心地の良い住環境づくりの推進
- 建替え等更新に伴う建物耐震化・不燃化及び細街路拡幅による安全性の向上

<大島緑道公園>

- 大島緑道公園の平時・災害時とも想定した活用にかかる更なる検討

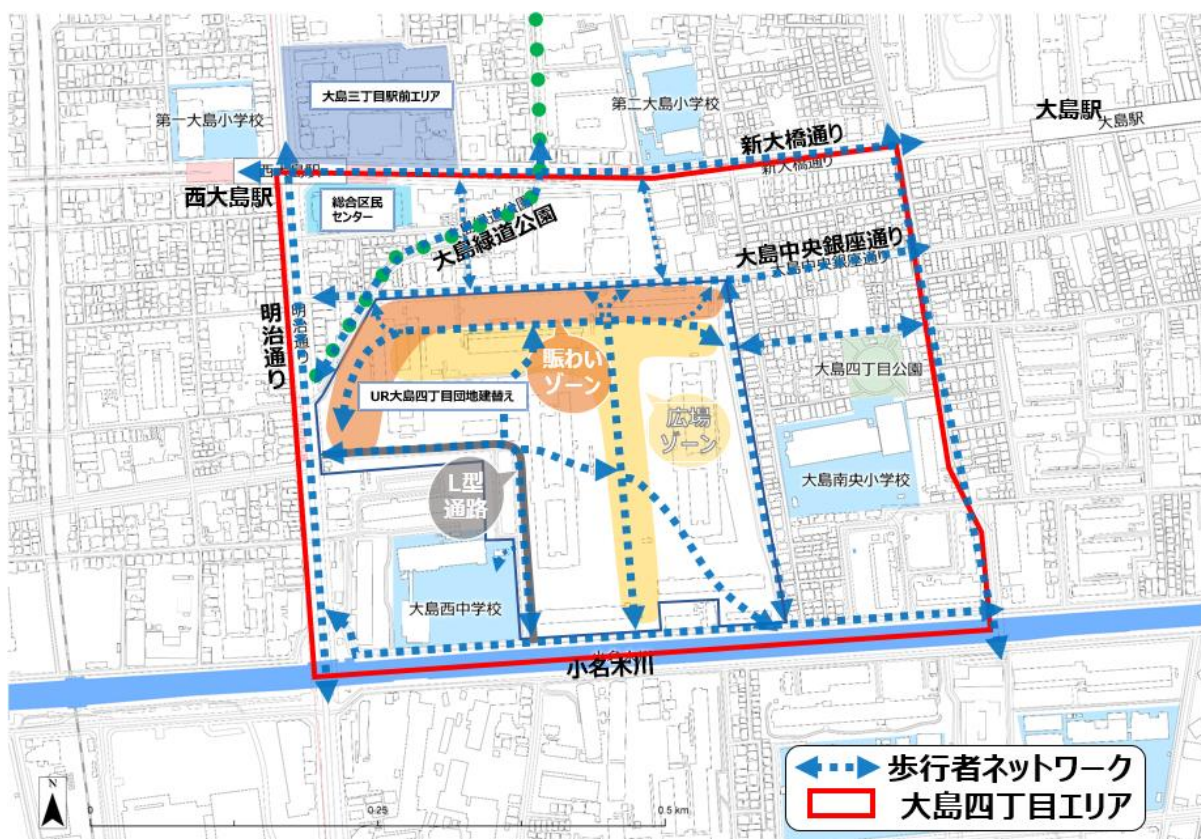
大規模団地ゾーン

- バリアフリーで周辺地域との一体的な利用がしやすい、まちに開かれた居心地の良い空間づくりの推進
- 団地が有する緑地機能の維持や充実に向けた、事業者等と連携したみどりの保全・創出

水と緑の軸

- 小名木川との繋がり強化によるまちの新たな価値の創出
- 小名木川の水辺空間を利用した魅力的なスポットの形成による地域価値の向上
- 親水アクティビティ等(水上スポーツ等)を通じて小名木川を地域の魅力資源として活用
- 平時における河川活用にかかる更なる検討(ドローン等新技術の河川上空利用、船上カフェや滞在施設等)
- 災害時における河川活用にかかる更なる検討(船やボート等での避難等)

■ 公共施設等の整備方針



図：公共施設等の整備方針

公共施設機能

- 公共・公益機能が集積している立地を活かした地域核の機能拡充による拠点強化
- 省エネルギー性能の高い設備・機器の導入等による環境に配慮した公共施設等の整備

広場・たまり空間

- 豊かなみどり・オープンスペースが存するUR大島四丁目団地等溜まり空間の継承・拡充
- 団地のゆとりある屋外空間を活かしたみどり豊かな憩いの空間を創出
- 公園(広場)等のオープンスペースの確保や大島緑道公園と一体的な周辺地域の住民も使える賑わい・広場ゾーンの形成

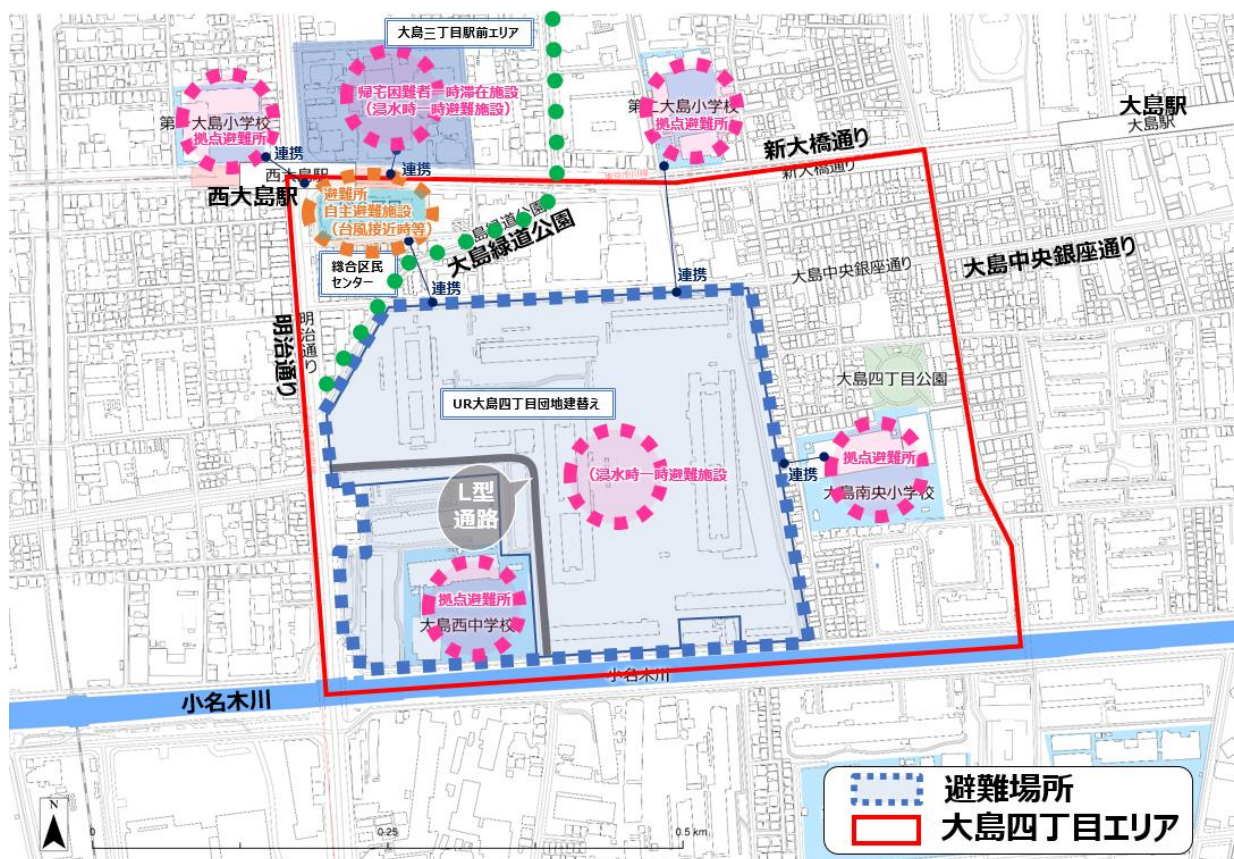
歩行者ネットワーク

- 道路環境の改善等による安全・安心で快適な歩行者空間の整備
- 安全で円滑な移動を可能にするバリアフリーに配慮した歩行者ネットワークの形成
- 大島緑道公園の歩行空間の快適性の向上
- L型通路による安全に通行できるネットワークの確保
- 小名木川沿道の改良等による歩行者・自転車の安全な通行環境の確保

その他

- 駅前自転車駐車場の地域ニーズに応じた改修やコミュニティサイクルポートの再配置等による自転車利用環境の向上
- バスレーンの整備や新たなモビリティの導入等による更なる交通利便性の向上
- 明治通りとＬ型通路における交差点改良による安全性の向上
- 住宅地における緊急車両等のアクセスの改善

■災害リスクへの対応方針



図：災害リスクへの対応方針

○UR大島四丁目団地と西大島地域や周辺地域との繋がり強化による地域の防災性やネットワーク機能の向上

○団地一帯は、大地震が起きた時に、多数の人命にかかわる延焼火災などの二次災害から身を守るために、一時的に避難する場所である避難場所として相応しい広場空間を形成

○次の3つの機能を有する「浸水対応型拠点建築物」を整備

緊急機能：建物利用者や地域住民等の避難者が緊急的に避難可能なスペース等

維持機能：非浸水階に設置された避難環境を確保するための物資・スペース・設備等

救助機能：避難者の移送（浸水区域外）、物資の輸送等に必要なスペース・機具等

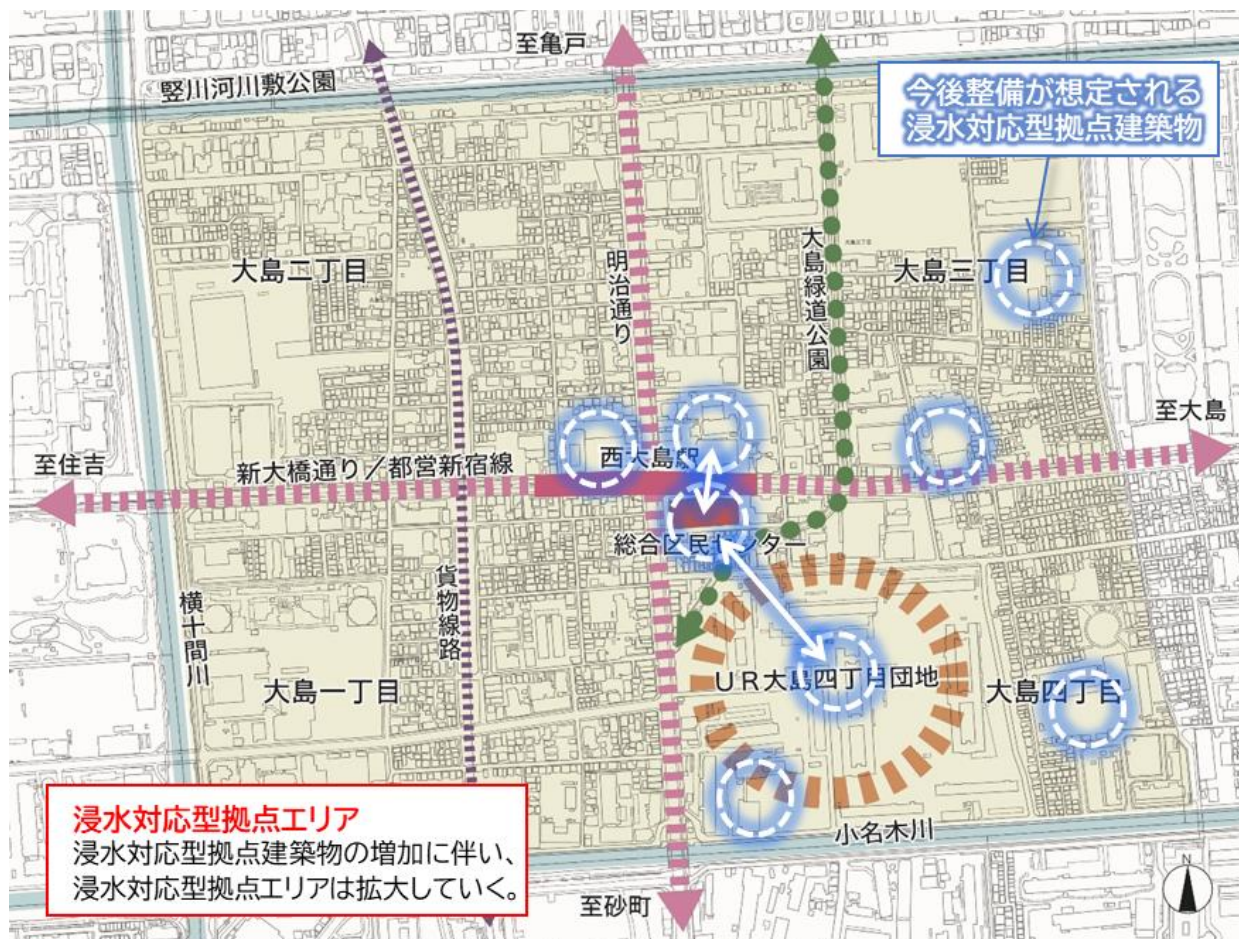
○水害が切迫している場合に地域住民等の緊急的な避難先として機能するとともに、他の浸水対応型拠点建築物等と連携した浸水対応型拠点エリアの形成

○一時避難施設である団地と周辺の拠点避難所や避難所との連携を強化

5. 今後のまちづくりの進め方

(1) 浸水対応型まちづくりの推進

本エリアにおいて、UR大島四丁目団地の建替えの機運を活かして総合区民センターと連携した「浸水対応型拠点建築物」を整備し、これを契機としてその他の大規模開発等に波及させ、救助機能により垂直避難先間や浸水区域内外をつなぐ「浸水対応型拠点エリア」の形成を推進する。

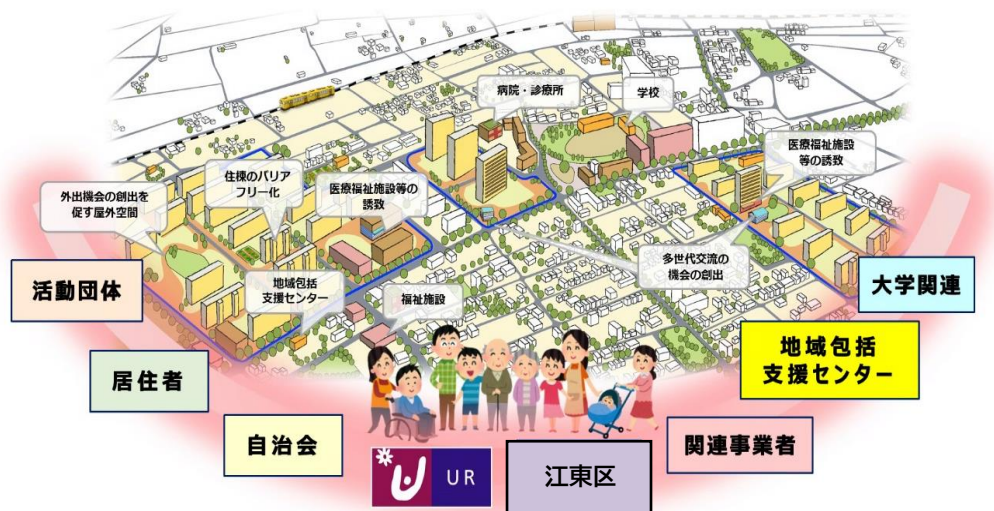


図：浸水対応型拠点建築物の整備による浸水対応型拠点エリアの形成

出典：「西大島地域まちづくり方針【増補版】」をもとに作成

(2) 地域医療福祉拠点化の更なる推進

UR大島四丁目団地は地域医療福祉拠点化の連携団地となっている。地域の関係者と連携・協力し、豊かな屋外空間を備え、多くの人々が住まう団地を“地域の資源”として活用し、地域に必要な住宅・施設・サービスの整備を推進していく。団地を含む地域一体で、“多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち”《ミクストコミュニティ》の実現を目指していく。団地建替え後においても地域医療福祉拠点化の更なる推進を目指していく。



出典：UR都市機構ホームページをもとに作成

(3) エリアマネジメントの推進

- ・地域における「良好な環境や地域の価値を維持・向上」させるための住民・事業主・地権者等による主体的な取組の1つとして、エリアマネジメント推進組織の設立を目指す。
- ・エリアマネジメント活動においては、地域特有の文化や景観を継承しつつ、更なる賑わい創出に向けた取組を行う。また、みどりと水辺のある心地よいまちなみの形成や、外国籍の居住者との多文化共生の推進、防災活動の推進に向けた取組を行う。
- ・活動及び運営にあたっては、地元町会や商店会、企業等を中心に、まちの維持管理、地域活動への参加などの働きかけを行い、新規住民と共に価値ある地域の形成・活性化を図りながら、より魅力的なまちへの発展を目指していく。

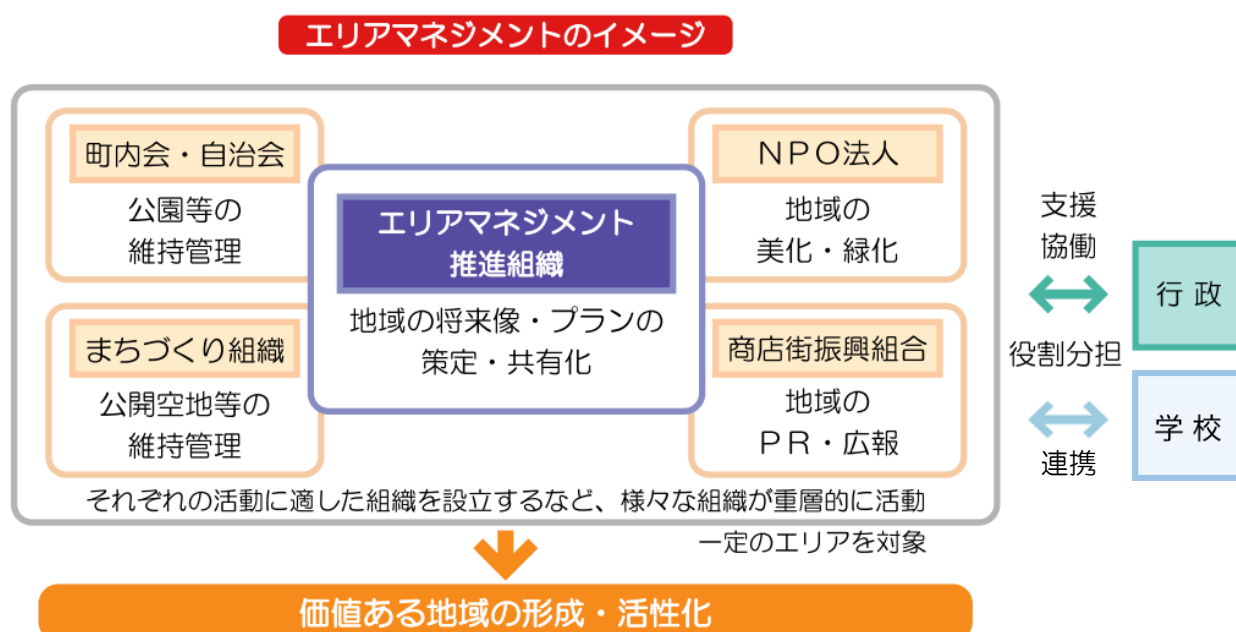


図: エリアマネジメントのイメージ

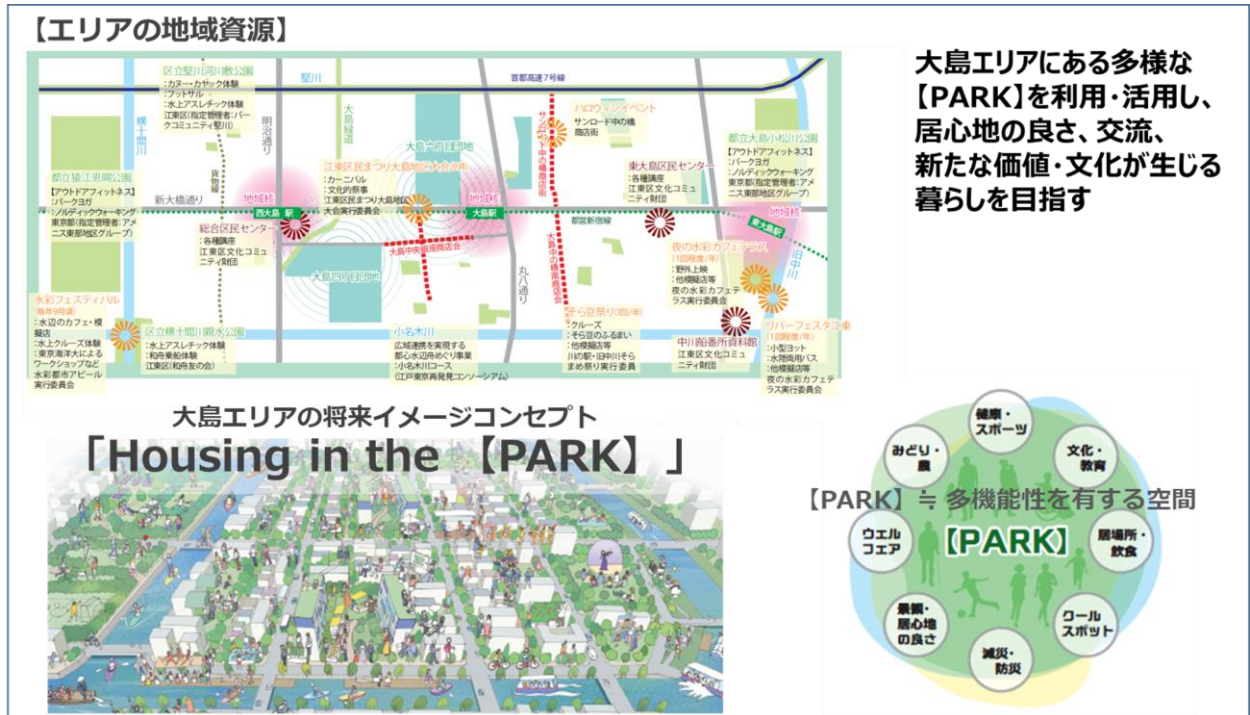
出典: エリアマネジメントのすすめ(国土交通省パンフレット)をもとに作成

6. 今後のまちづくりの展開

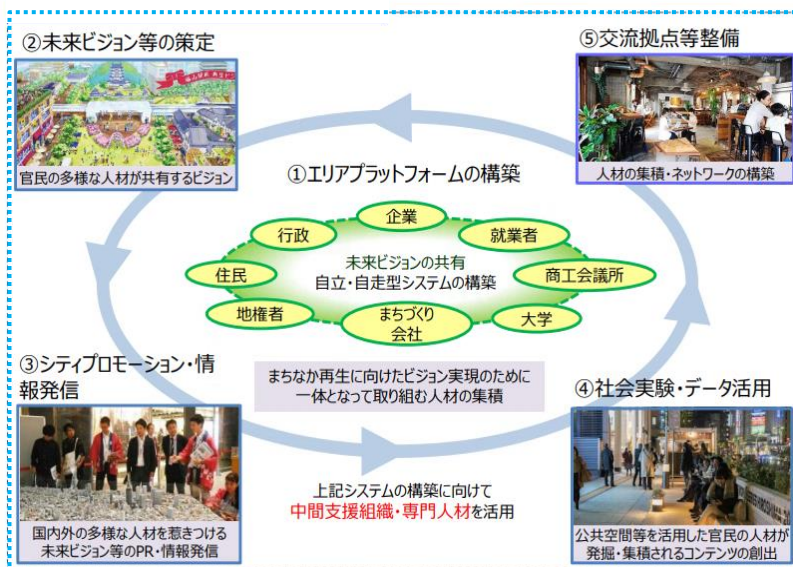
本エリアまちづくり方針策定後においても、本エリアがより魅力的なまちへ発展していくよう、地区目標や基本方針、まちづくり方針の実現に向けた取組について、引き続き検討・議論していく。

また、周辺地域に集積する公園・水辺・公益施設・団地等を活用・連携することで、本エリア及び周辺地域等の価値向上を目指していく。

◆周辺地域に集積する公園・水辺・公益施設・団地等を活用した将来イメージ



(参考)エリアプラットフォームのイメージ図



※エリアプラットフォームとは、「左図の関係者などが集まって、まちの将来像を議論・描き、その実現に向けた取組(＝まちづくり)について協議・調整を行うための場」です。

出典:「官民連携まちなか推進事業」について

(国道交通省都市局まちづくり推進課)

用語解説

新たなモビリティ	デジタル技術などの進展により生まれた新しい移動手段・方法
一時避難施設	荒川の氾濫や津波等の大規模水害が発生した際に一時的に避難することのできる施設
エリアマネジメント	都市開発がなされた地区など特定のエリアにおいて、地権者や企業などの民間が主導で、行政と連携してまちづくりを行うこと。
オープンスペース	広場や公園、街路、河川敷地などの公共の空き地や、ビルやマンションなどの敷地内において建築物が建てられていない空間のこと。
拠点避難所	避難所の機能のほかに通信機能を有し、地域の情報収集等の活動拠点となる施設であり、区立小・中学校等を指定している。
コミュニティサイクルポート	歩道上等に設置された、専用自転車の貸出・返却を行う無人の駐輪場
再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマスなどの再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。永続的に利用でき、温室効果ガスを発生させない。
自主避難施設	自主的な避難を希望する区民の受入れ施設
出火危険度	地震時に火災が発生する危険性を地域ごとに評価するもの
地域医療福祉拠点化	UR都市機構が推進する、団地を含む地域一体で「多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち（ミクストコミュニティ）」の実現を目指して行う取組のひとつ
ハザードマップ	自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。江東区には洪水、大雨浸水（内水）、高潮の3種類がある。
バリアフリー	心身の障害などハンディキャップのある人にとって、物理的（建物構造・交通機関など）、文化・情報面（点字・手話・音声案内・字幕・分かりやすい表示の不備）などの障壁が取り除かれた状態に向けた取組
避難所	地震などの災害により自宅で生活ができなくなった地域住民の生活の場として、区が災害の規模に応じて区立小中学校・義務教育学校、高等学校、公共施設、民間施設に順次開設する避難者受入施設
避難場所	震災時に拡大する火災から住民を安全に保護するため、東京都が指定する場所。公園、団地、大学などが指定されている。

不燃領域率	市街地の「燃えにくさ」を表す指標。建築物の不燃化や道路、公園などの空地の状況から算出し、不燃領域率が70%を超えると市街地の焼失率はほぼゼロとなる。
ポケットパーク	道路整備や交差点の改良等によって生まれたスペースに、ベンチを置くなどして作った小さな公園
みどり	江東区みどりの基本計画に基づき、木や草等の植物を「緑」と表現し、それに対して、植物だけでなく、樹林地、草地、水辺、広場等、動植物が生息し、自然と人が共生する環境やその恩恵、人との関わりによる文化等を含めたものを「みどり」としている。
ユニバーサルデザイン	障害の有無、年齢、性別、人種などに係らず、多様な人が利用しやすいよう、都市や生活環境をデザインする考え方
ライフステージ	人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階
NPO	「Non-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称

本エリアまちづくり方針中の次の図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。

(承認番号)(MMT 利許第 - 号)

P44 図:土地利用の方針

P46 図:公共施設等の整備方針

P48 図:災害リスクへの対応方針

大島四丁目エリアまちづくり方針 令和●年●月

江東区都市整備部まちづくり推進課

江東区東陽4-11-28

電話 03(3647)9111代表

印刷物登録番号 (●)●号